

2017年12月18日 全4頁

## Indicators Update

# 2017年11月貿易統計

米国向け自動車輸出、アジア向けIC輸出の増加により、  
輸出数量は2ヶ月連続のプラス

経済調査部  
研究員 廣野 洋太  
エコノミスト 小林 俊介

### [要約]

- 2017年11月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+16.2%（市場コンセンサス：同+14.7%）と前月（同+14.0%）からプラス幅が拡大した。米国、アジア向け輸出数量が増加したことが背景にある。11月の税関長公示レートは113.54円/ドルと、前年比で見ると8.2%の円安水準であった。
- 輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比+3.4%と2ヶ月連続で増加した。地域別に見ると、自動車と自動車の部分品の輸出増を背景に米国向け（同+3.4%）、ICや鉄鋼の輸出増を背景にアジア向け（同+2.7%）が増加した。一方、押し下げ要因となったEU（同▲3.4%）は、自動車や電算機類の部分品の減少が大きかった。
- 先行きの輸出について、海外経済が底堅い成長を続ける中、緩やかな増加基調をたどるとみている。ただし注意点としては、米欧の金融政策の動向が挙げられる。米国では、Fedが金融引締めを着実に実行し続けており、ECBにおいても来年以降の資産買い入れの圧縮（テーパリング）がすでに発表されている。両中銀の金融引締めが米国、欧州経済の下押し圧力となるリスクには留意が必要である。

図表1：貿易統計の概況（原系列、前年比、%）

	2017年									
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
輸出金額	12.0	7.5	14.9	9.7	13.4	18.1	14.1	14.0	16.2	
コンセンサス									14.7	
DIR予想									13.4	
輸入金額	15.9	15.2	17.9	15.5	16.3	15.3	12.1	18.9	17.2	
輸出数量	6.6	4.2	7.5	4.0	2.6	10.4	4.8	3.8	5.5	
価格	5.0	3.2	6.9	5.5	10.5	7.0	8.9	9.8	10.1	
輸入数量	4.2	4.9	5.4	4.2	3.2	2.4	▲0.2	3.2	2.6	
価格	11.3	9.8	11.8	10.8	12.6	12.6	12.4	15.2	14.2	
貿易収支	6,103	4,792	▲2,064	4,414	4,220	1,095	6,640	2,846	1,134	

（注1）貿易収支は億円。

（注2）コンセンサスはBloomberg。

（出所）財務省、Bloombergより大和総研作成

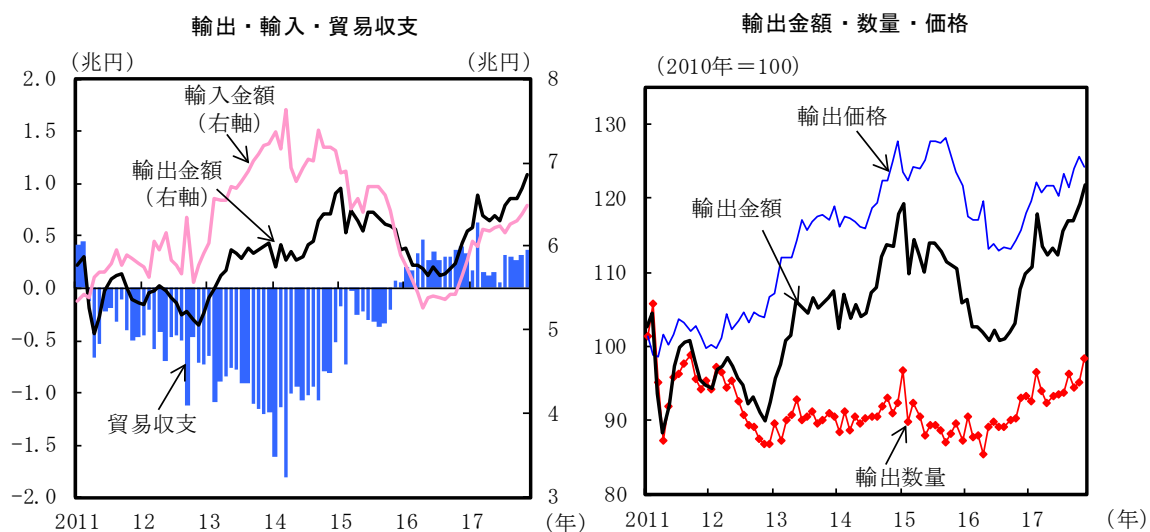
## 輸出金額は前月比+2.2%、貿易収支は6ヶ月連続の黒字

2017年11月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+16.2%（市場コンセンサス：同+14.7%）と前月（同+14.0%）からプラス幅が拡大、輸入金額は同+17.2%と前月（同+18.9%）からプラス幅が縮小した。貿易収支は+1,134億円と6ヶ月連続の黒字となった。

輸出・輸入金額を数量要因と価格要因に分解すると、輸出金額の数量要因は米国、アジア向けを中心に増加した結果、輸出金額の前年比プラス幅は前月から拡大した。輸入金額は数量要因、価格要因の両方がプラスに寄与したが、プラス幅は前月から縮小した。輸入価格の前年比プラス幅は、11月（前年比+14.2%）は前月（同+15.2%）から縮小したが、原油価格の上昇を背景に拡大傾向にある。11月の税関長公示レートは113.54円/ドルと、前年比で見ると8.2%の円安水準であった。

季節調整値で見ると、輸出金額は前月比+2.2%、輸入金額は同+1.7%となった結果、貿易収支は3,641億円の黒字となり、前月（3,493億円の黒字）から黒字幅が拡大した。

図表2：輸出金額・数量・価格、貿易収支（季節調整値）



(注) 輸出数量、輸出価格の季節調整は大和総研。  
(出所) 財務省統計より大和総研作成

## 米国、アジア向け輸出の増加

輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比+3.4%と2ヶ月連続で増加した。地域別に見ると、全体を押し上げたのは米国向け（同+3.4%）とアジア向け（同+2.7%）であった。

米国向けでは、自動車と自動車の部分品の増加が全体を押し上げたようだ。自動車輸出に関しては、米国内市場の頭打ち感と比較して好調な推移を続けている。アジア向けにおいてはICや鉄鋼が輸出数量の増加に大きく寄与したとみられる。アジア向けIC輸出は依然として高水準で推移している。

一方、押し下げ要因となったEU（同▲3.4%）は、自動車や電算機類の部分品の減少が大きかった。シェアの大きい自動車輸出は2017年前半までは堅調に推移してきたものの、後半では減少傾向に転じている。

堅調に増加していた半導体等製造装置の輸出数量は、11月は季節調整値（大和総研による）で見ると前月比▲14.6%と大幅に減少した。高水準を維持しているものの、ピークアウトの時期については留意が必要だろう。

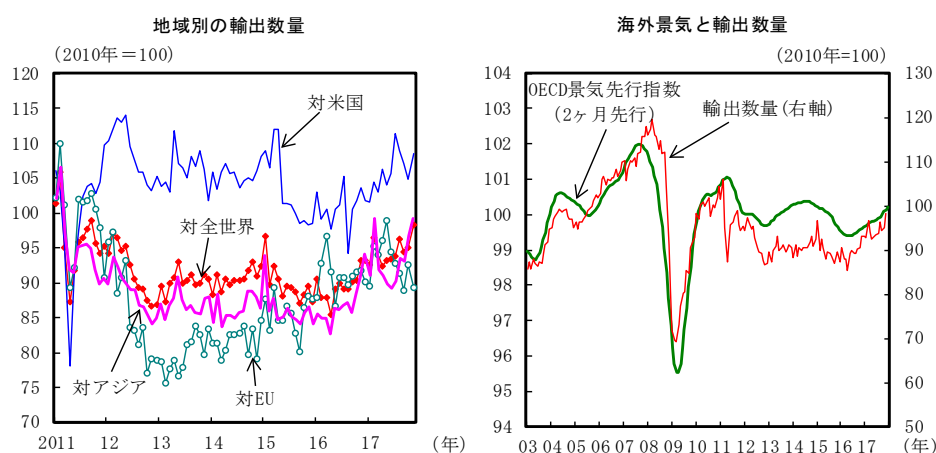
### 輸出数量の見通しは緩やかな増加基調

先行きの輸出について、海外経済が底堅い成長を続ける中、緩やかな増加基調をたどるとみている。米国経済は回復基調にある。高水準の企業マインドを背景にした設備投資がけん引役となり今後も堅調な推移が予想されることから、米国向け輸出は緩やかに増加する見込みである。また、欧州経済はこれまでの景気けん引役であった個人消費に加えて、設備投資などの固定資本形成も伸びており、バランスの良い景気拡大局面へ移行しているため、EU向け輸出についても拡大が見込まれる。

注意点としては、中国経済の減速と米欧の金融政策の動向が挙げられる。共産党大会に向けた景気テコ入れの剥落と環境規制の強化によって中国経済は緩やかに減速する可能性があり、中国向け輸出へのマイナス要因となるリスクがある。

米国では、Fedが金融引締めを着実に実行し続けており、金融引締めが米国経済の下押し圧力となる可能性がある。また、Fedの金融引締めに伴う新興国からの資金流出も危惧されるだろう。また、ECBにおいても来年以降の資産買入れの圧縮（テーパリング）がすでに発表されており、同様にEU経済の下押し圧力となりうる点に留意が必要である。

図表3：地域別の輸出数量、海外景気と輸出数量（季節調整値）



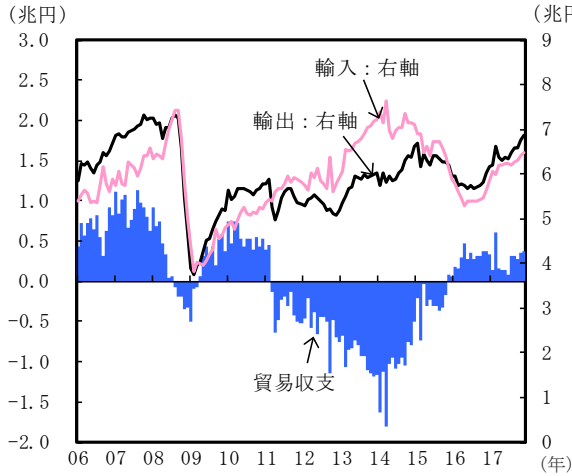
(注1) OECD景気先行指数 (CLI)はOECD諸国とBRICsなど非加盟6ヶ国を集計したベース。

(注2) 輸出数量の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、OECD統計より大和総研作成

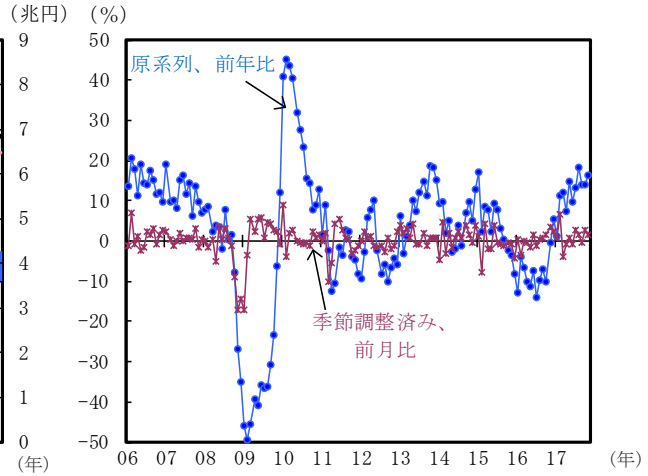
概況

輸出入と貿易収支 (名目、季節調整値)

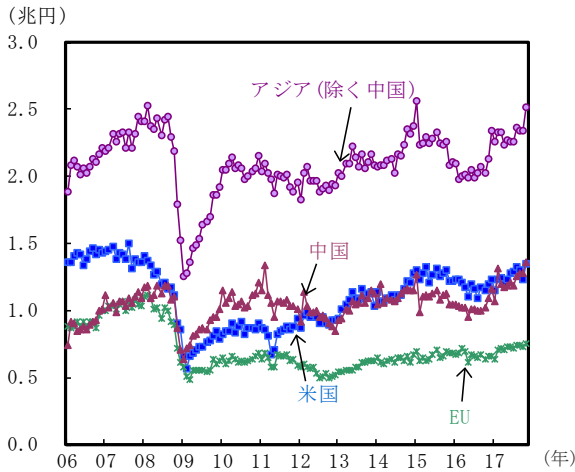


(出所) 財務省統計より大和総研作成

輸出額の変化率 (名目)

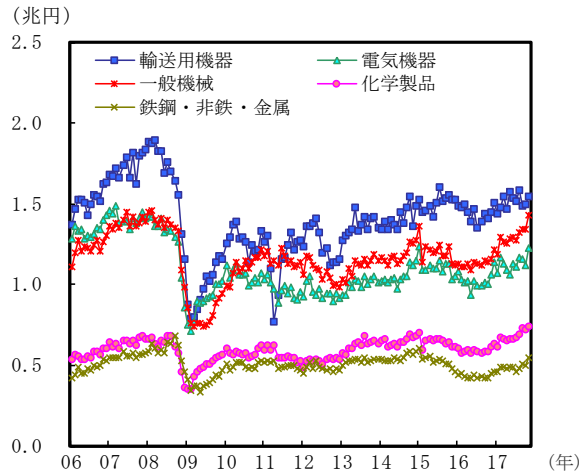


主要地域・国別の輸出額 (名目、季節調整値)

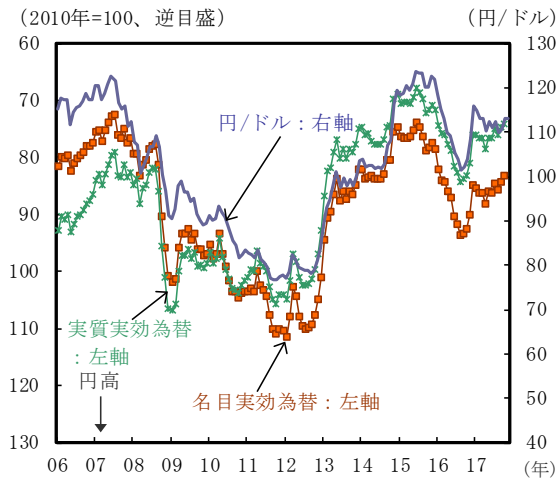


(注) 季節調整は大和総研。  
(出所) 財務省統計より大和総研作成

主要商品別の輸出額 (名目、季節調整値)



為替相場



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数 (輸出物価指数/輸入物価指数)。  
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

交易条件

